

感染予防の基礎知識

感染管理認定看護師 加藤 望美

私は6階西病棟(地域包括ケア病棟)に所属し、感染管理認定看護師として日々、感染症の予防と対策、発症後の対応などを行っています。病院の感染防止活動として、病院内で発生する様々な感染症から職員や患者さんを守るために活動するICT(感染制御チーム)と、抗菌薬の適切な使用を支援するAST(抗菌薬適正使用支援チーム)の2つのチームがあります。どちらも医師、看護師、薬剤師、検査技師などの多職種が協力しながら活動を行っています。病院は様々な症状のある方が受診されます。また、ウィルスが原因の病気の多くは潜伏期といって、感染しても症状が出ない期間があり、その期間は人から人へうつる可能性があります。そのため、職員から患者さんへ、患者さんから職員へうつらないように、感染対策の知識や技術習得のための研修や指導を行っています。

さて、寒い日が続きますが冬の時期に流行する感染症はご存知ですか?冬は、季節性インフルエンザやノロウイルスが流行します。ど

ちらのウィルスも感染力がとても強いです。また、インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は、ともに発熱、咳、頭痛などの症状があり似ています。新型コロナウイルス感染症は、症状がない状態で人にうつしている可能性があるため注意が必要です。ノロウイルスの症状は嘔吐や下痢があり、処理方法や手洗いなどの感染対策に注意が必要です。新型コロナウイルス感染症の流行で、あらゆる場所でアルコール消毒剤をみかけるようになりましたが、ノロウイルスには効果が少ないため、定期的な換気、外出後だけでなく調理前や食事前は流水と石鹼による手洗いを行うことが大切です。ひとりひとりの予防が大切なため努めていきましょう。

これからも患者さん、ご家族が安心して受診、入院生活が送れるよう感染対策に努めています。お悩みなどあれば、いつでもご相談ください。



うどん屋さんの企業秘密

虹色アートボランティアメンバー
池上 英治 さんからの寄稿



「今のうどんが流れてるのは、元はと言えば中国の店先にあった麦の穂をつかんで懷に入れ、空海が日本に持ち帰ったからである。盗んだ麦の種からうどんが作られたということである」

話は1200年前、中国の港付近で空海は店先に並んでいる麦の種を一掴み懷に入れた。すると番犬がそれを嗅ぎつけ吠え付き店主に知らせようとしたのである。当時すでに大阿闍梨、國賓級の扱いを受けていた空海に対して吠え付く番犬を店主は懸命に咎めたが、番犬は一生吠え出したのである。そこで店主は番犬を叩きのめし、番犬は瀕死の状態に陥ってしまったのである。しかしながら番犬からすれば「代金も払わずに懷に品物を入れた泥棒」である。やがてその犬は亡くなつたが、空海はこの時、番犬のとった行動の本質を見抜き深く哀れんだ。そして番犬の転生を祈願して犬塚を建てた。それが善通寺市仙遊町に今も現存している。現在、香川県は「うどん県」として全国に知れ渡っているが、うどん伝来の背景にはこんな物語が隠されている。



独立行政法人 国立病院機構

四国こどもとおとの医療センター

〒765-8507 善通寺市仙遊町 2-1-1 TEL 0877-62-1000 <https://shikoku-mc.hosp.go.jp>
 交通機関 ▼善通寺 ICより車で 5分 ▼JR土讃線善通寺駅下車徒歩25分

発行日 / 令和6年3月1日

発行者 / 横田 一郎

編集委員 / 前田 和寿



独立行政法人 国立病院機構
四国こどもとおとの医療センター

こもれび通信

Shikoku Medical Center for Children and Adults*

光と影、人物と植物、バランスを保ちながら循環する命の恵が、全ての人をこもれびのようにやさしく包み込みますように…

よく聞く「リハビリ」って、何?

四国こどもとおとの医療センター 理学療法士長 藤野裕美



一言で【リハビリ】というと、「ケガを治療したあとにするものでしょ?」と思われがちです。勿論、それもリハビリの一種ですが、病院で行うものだけでなく、日常生活でも活用できるものもあるんです。

まず、リハビリの正式名称は「リハビリテーション」といいます。

当院のリハビリテーション科には理学療法士、作業療法士、言語聴覚士というそれぞれの分野に特化した専門のスタッフがいます。

それぞれに適した分野がありますが、総じてリハビリは患者様が「自分らしく生きる」を叶えるためにあります。

ケガや病気、加齢で以前のようには動けない、日常生活に困難がある。それを少しでも緩和させるのがリハビリなのです。

もちろん、そうなる前の予防もリハビリの領分ですから、ケガや病気になった時に寝たきりにならないように、日頃から身体を動かすことをおすすめしています。地域で健康体操や講習を行っていませんか?もし目に留まつたらぜひ参加してみてください。

香川県では1日プラス1000歩歩きましょうという目標があるそうです。とても良いですね。日本で一番日照時

間が長く、平野部も多い香川県は散歩におすすめかもしれません。

当院の近くには弘法大師御生誕の地、善通寺があります。グルッと一周するとだいたい600m強あります。自安として500m=1000歩ですので、お天気が良い日は五重塔を眺めながら、一周してみてはいかがでしょうか?

また、「うどんと野菜と一緒に採りましょう」という香川らしい目標を県が推進しているようです。年々増えている糖尿病への対策だと思われますが、生活の一環として、ちょっと息があがりそうになる運動を加えて頂くと、さらに効果的です。

片脚でバランスを保持する、負担の掛からないスクワット、壁に手をついてかかと上げ運動など、お家でもできるリハビリがありますので、ぜひ試してみてくださいね。



未来 ISSEYは
小児がんなどの病気を抱える
子どもとその家族を支援する
NPO法人です



● TOPICS ●
未来 ISSEY
活動報告

2018年、代表理事吉田ゆかりさんが病弱児をもつ親だった経験から、同じような状況のお母さんたちに声を掛けて、子どもたちとその家族の置かれる状況を改善したいという思いで設立しました。

病気に悩む子どもや若者が・ご家族が未来に輝けるための「今」を応援する活動を続けています。お気軽にご連絡くださいね。



寂しい思いを和らげる『交流支援ロボット』

遠隔でコミュニケーションができるロボットを貸し出しています。修学旅行や卒業式などの学校行事への参加を支援し、笑顔を増やすお手伝いをします。入院先と家・学校・仲間などをオンラインでつなぎ、「今」会いたい気持ちに応えます。

コミュニケーション支援ボランティア 『チーム・グッドブラザー』

入院中のコミュニケーション不足や学習面が不安な方への支援として、未来ISSEYと研修を受けた学生ボランティアで子どもたちの心や学習を支えます。学生たちが子どもたちにとって「少し年上の心許せる友だち」となり、楽しいゲームや手作りの問題集などを使って交流しています。四国こどもとおとなの医療センターには月1回直接伺っています。また、年に4回、楽しい季節のイベントをオンラインで開催。是非ご参加ください！

入院生活をちょっとだけ便利に!『エールバッグ』

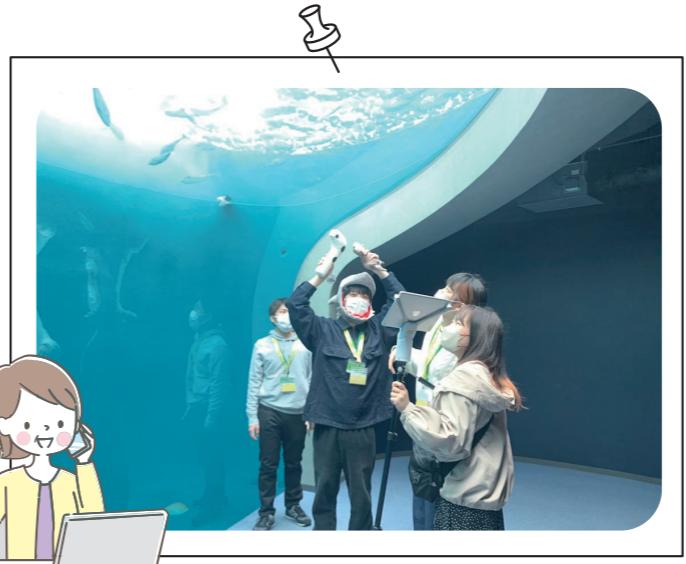
子どもの入院の付き添いなどを経験すると、お買い物1つも不自由だと感じます。未来ISSEYから品物がご準備できたときに、入院生活に使えるグッズの入ったエールバッグをお届けしています。

不安や悩みに寄り添う『ぴあサポート』

未来ISSEY自身が当事者としての立場で電話相談でお話を聞いたり、当事者同士での交流会を開催したりしています。また治療に役立つ情報提供も積極的に行ってています。

未来をささえる『みらいキューブ』

病気を抱える子どもやその家族のよりどころとなる施設「みらいキューブ」を運営しています。施設内のカフェスペースでは、自由に時間を過ごしたり来訪者と交流したりできます。他にも、将来へのチャレンジを応援する技能研修を行っています。



交流支援ロボットを使って、スタッフとボランティア「グッドブラザー」が院内の子どもさんに外の楽しい場所をご案内！

スタッフ・グッドブラザーと月1回程度、ボランティア室でゲームやワークショップを楽しめますよ！
日程はボランティア室森さんまで。



NPO法人 未来ISSEY（設立：2018年11月）

事務局：
〒763-0003 香川県丸亀市葭町17(みらいキューブ内)
HP: <https://miraiissey.com>
TEL: 0877-35-8115 (平日9:00~12:00, 13:00~17:00)

SNSで情報発信しています。
Lit.Link: <https://lit.link/miraiissey>



もっと知りたい
病院のこと
先生のこと

04

高橋 翠先生
消化器内科医師

- 1 病院のココが自慢
コメディカルの人柄
- 2 患者さんと接する時に大切にしていること
目線を合わせること

- 3 医師になろうと思ったきっかけは？
親になれと…

- 4 もし、医師になっていなかったら？
長距離トラックドライバー

- 5 先生が実施している健康法は？
健康を意識しないこと

- 6 どっち？
- | | |
|-------|--------|
| 犬派 | 猫派 |
| 和食 | 洋食 |
| インドア派 | アウトドア派 |

- 6 好きなもの（こと）Best 3！
 - 1 お買い物
 - 2 ドライブ
 - 3 プラネタリウム